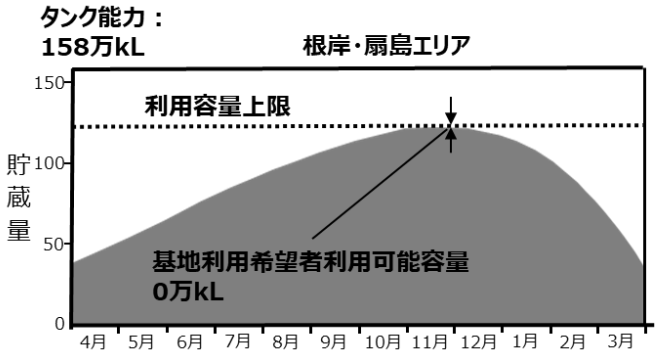
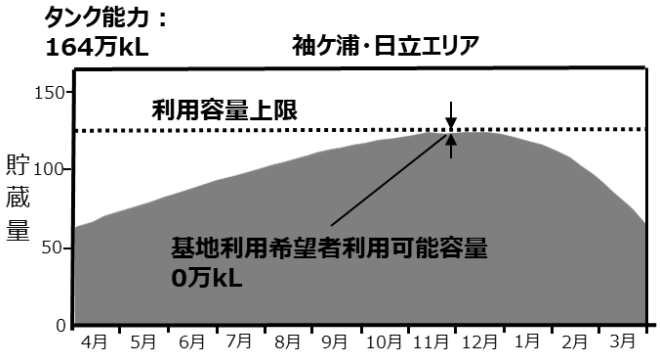
＜別表 1＞　基地の貯蔵能力および気化能力の目安（イメージ）

(1)　液化ガス貯蔵設備の容量及び余力の見通し（2025 年度）

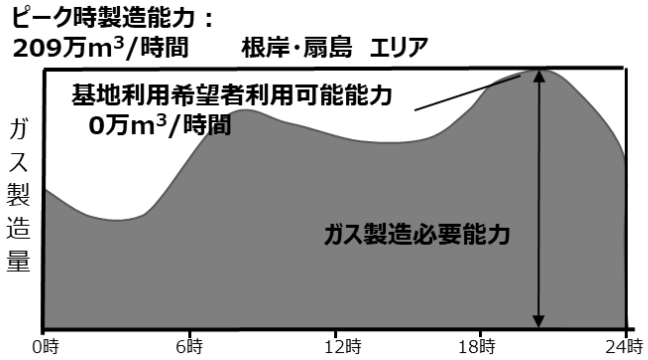


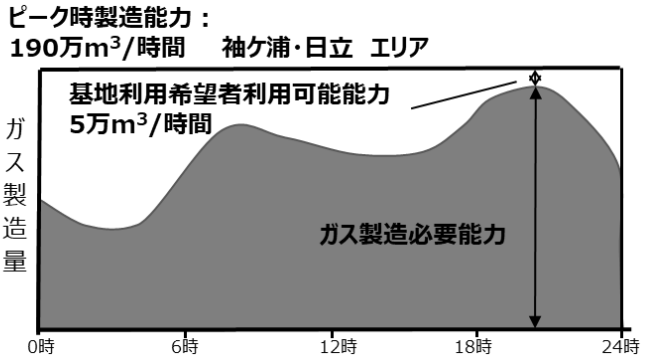




・2024 年度 7 月末時点では、根岸・扇島エリアのルームレント方式でご利用いただける余力はございません。ルームシェア方式であれば、右記条件の場合、年間 24 万 kL 程度受入可能です。それ以外の条件においても、ご利用可能な場合がございます。詳細についてはお問い合わせください。
・2024 年度 7 月末時点では、袖ケ浦・日立エリアのルームレント方式でご利用いただける余力はございません。ルームシェア方式であれば、右記条件の場合、年間 24 万 kL 程度受入可能です。それ以外の条件においても、ご利用可能な場合がございます。詳細についてはお問い合わせください。

（ルームシェア方式における利用可能容量・受入量の算定条件）
・基地利用希望者の利用可能容量は、自社グループの小売部門等の LNG の受入状況、都市ガス・電力の需要動向、定期的又は予定外の設備工事、当社以外の利用者の基地利用状況等により変動することがあります。
・ルームシェア方式における受入量は、入船 1 回あたり 12 万 kL（発熱量 43.0MJ/Nm3）を、年度終了時に LNG 在庫が 0 となるように、6 カ月間の間一定の割合で払い出した場合の結果となります。また、高在庫が見込まれる期間は、当社から LNG 貸出を行い、高在庫期間後に LNG を受入れ返却した場合の結果となります。

(2)　ガス発生設備の種類、能力及び余力の見通し（2025 年度）




| エリア | ガス発生設備の種類 |
|---|---|
| 根岸・扇島エリア | オープンラック式液化天然ガス発生設備<br>プレートフィン型液化天然ガス発生設備 |
| 袖ケ浦・日立エリア | オープンラック式液化天然ガス発生設備 |

## ＜別表 2＞ LNG 基地に受入可能なおおよその船型、及び LNG の品質

(1) 船舶の種類及び最大船型

| |
|---|
| ①船舶の種類 |
| ・モス型（従来型タンクカバー）LNG 運搬船 |
| ・モス型（連続型タンクカバー）LNG 運搬船 |
| ・メンブレン型・SPB 型 LNG 運搬船 |
| ②最大船型 |
| ・根岸・扇島エリア　　: 21 万 $m^3$ 級船舶 |
| ・袖ケ浦・日立エリア　　: 21 万 $m^3$ 級船舶 |

注）LNG 船の受入可否は個別の判断となります。

(2) LNG 品質

| | | |
|---|---|---|
| 組成 | メタン | 84 モル％以上 |
| | ブタン以上 | 2 モル％以下 |
| | ペンタン以上 | 0.1 モル％以下 |
| | Ｎ２ | 0.5 モル％以下 |
| 発熱量 | 40.0　～　45.5 MJ/m3N | |
| その他 | 固形またはその他の不純物及び異物を含まないこと | |

注）受け入れることができる LNG の品質は、個別の利用条件やタンク運用実態によって異なるため、上記の範囲内でも受入可否は個別の判断となります。

## ＜別表 3＞ 年間配船計画のおおよその策定スケジュール

当年度分の配船計画の策定スケジュールは概ね以下の通りです。

・前年度 8 月ごろ・・・LNG 売主との間で配船協議を開始

・前年度 12 月～3 月ごろ・・・LNG 売主との間で年間配船計画を策定

注）上記はおおよその策定スケジュールであり、具体的な配船計画策定スケジュールは様々な LNG プロジェクトによって異なります。